

せみた 蝉田遺跡第2次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成25年10月5日

調査要項

遺跡名	蝉田遺跡(遺跡番号 208-151)
所在地	山形県村山市大字西郷字蝉田
時代・種別	奈良・平安時代：集落跡 近世：集落跡
起因事業	東北中央道(東根～尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成25年5月23日から12月13日まで
調査面積	5,000㎡
調査担当者	専門調査研究員 齊藤主税(現場責任者) 調査研究員 庄司昭一 調査員 吉田満
調査成果	(10月5日現在)
検出遺構	奈良・平安時代：溝跡 土坑 柱穴 近世～近代：溝跡
出土遺物	土師器 須恵器 陶磁器 石製品 木製品 鉄製品 古銭 種子



図1 遺跡位置図(S=1:50,000)

2 発見された遺構と遺物

検出された遺構は、溝跡、土坑、ピット等で、主に平安時代の遺物が出土しています。

溝跡は調査区東側で確認されています。地形が北から南へ低くなっていることから、北から南へ流れていたことが推測されます。平安時代の溝跡は調査区南東部分に集中しています。また、近世～近代にかけての年代が想定されるSD130溝跡が確認されました。杭が打ち込まれたような痕跡や人頭大の川原石が敷き詰められている状況から堰跡の可能性が想定されます。近世の陶磁器や近代のガラス瓶等の他に、平安時代の土師器、須恵器も出土しています。

土坑も調査区の東側を中心に確認されています。規模・形・堆積土等異なった様相を呈しています。須恵器甕の破片が検出面で確認された土坑(SK141)、遺構の周縁部に白い堆積土が廻る土坑(SK115)等、平安時代の土坑が多くを占めています。SK111土坑からは板4枚を組み合わせた箱型の木製品(縦約40cm、横約25cm)が出土しています。板の組立には断面が四角い鉄釘が用

いられています。四角い鉄釘は江戸時代まで使用されていたと考えられています。また横長の穴が一箇所開いています。用途は不明です。遺構上面から江戸時代の陶磁器が出土しています。

上記の遺構の他に、性格不明の遺構が確認されました。主に地形の低い調査区中央部に集中しています。堆積土を観察すると、天地返しのような様相があり、木が倒れたような痕跡(風倒木)と想定されます。

平安時代の遺物は土師器、須恵器等の土器、近世以降の遺物は陶磁器、木製品、古銭等が出土しています。

3 まとめ

今回の調査では、主に平安時代の遺構・遺物が見つかりました。遺構が集中するのが調査区東側で、標高が高い部分に相当します。逆に低い部分の遺構数は少なくなります。つまり、遺跡の中心が調査区の東隣に存在し、さらに東側に遺跡が広がることが考えられます。

1 調査の概要

蝉田遺跡は村山市名取西郷地区に所在します。遺跡の西側には、最上川と蝉田川が南北方向に蛇行しながら流れています。周辺の地形は沖積地で水田が広がっています。また、遺跡南西地区にある浮沼という地名の通り、地盤が沼のように緩い場所に遺跡が立地しています。

昨年度に引き続き、東北中央道(東根～尾花沢間)建設工事に伴い、発掘調査を行いました。調査範囲は、昨年度の調査区の北側に位置し、工事に係る約5,000㎡(南北約80m×東西約60m)について調査を行いました。

調査は重機で遺構が確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り遺構を確認しました。その後、遺構を掘り下げ、遺構の平面や土層断面、遺物の出土状況等を図面や写真に記録しました。



図2 調査区概要図(縮尺任意)



写真1 調査完了区全景(南から)



写真2 平安時代の溝跡 (SD131 ~ 133)

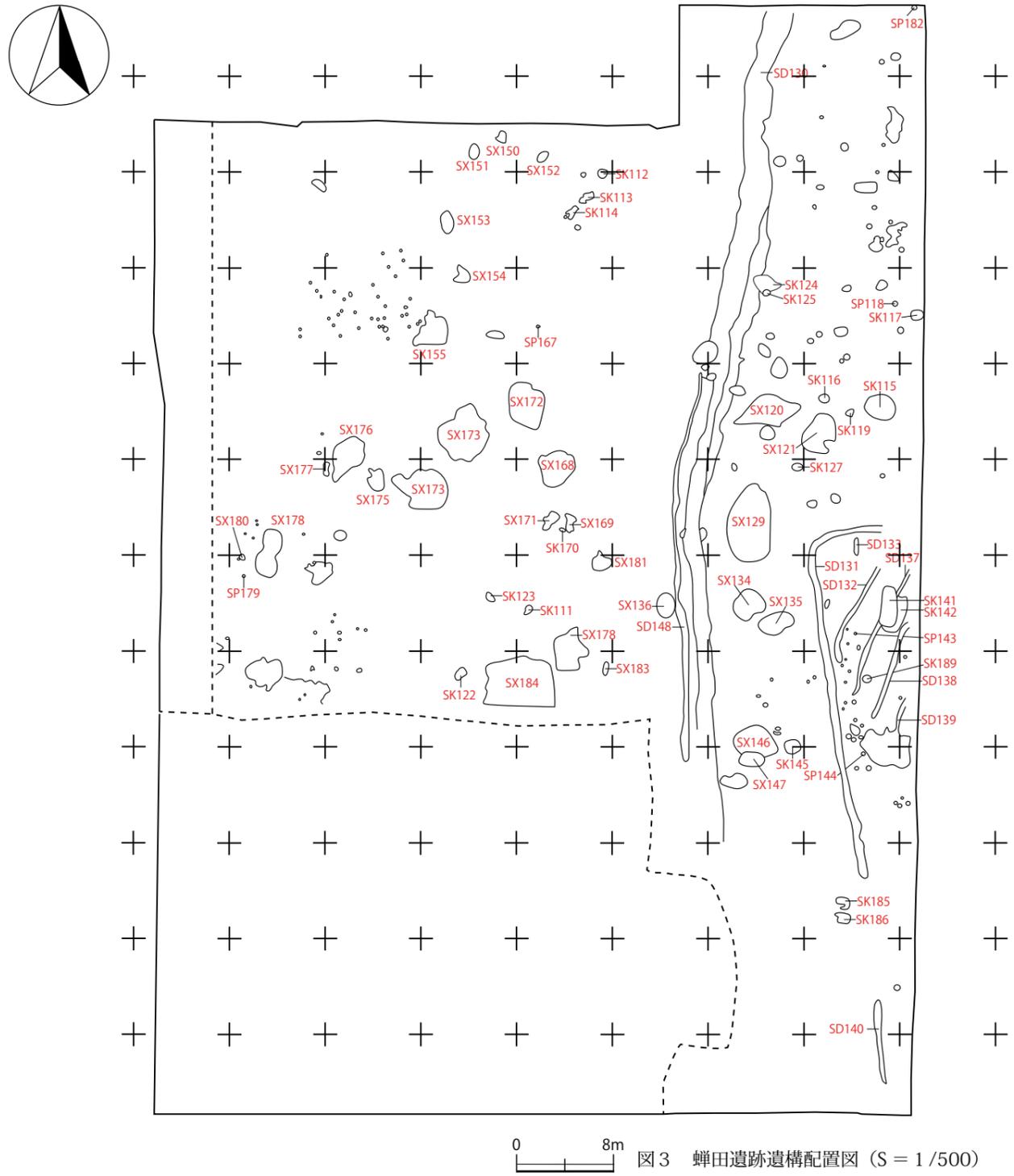


図3 蟬田遺跡遺構配置図 (S = 1/500)



写真6 土師器坏出土状況 (SD131)



写真7 土師器坏出土状況 (SK116)

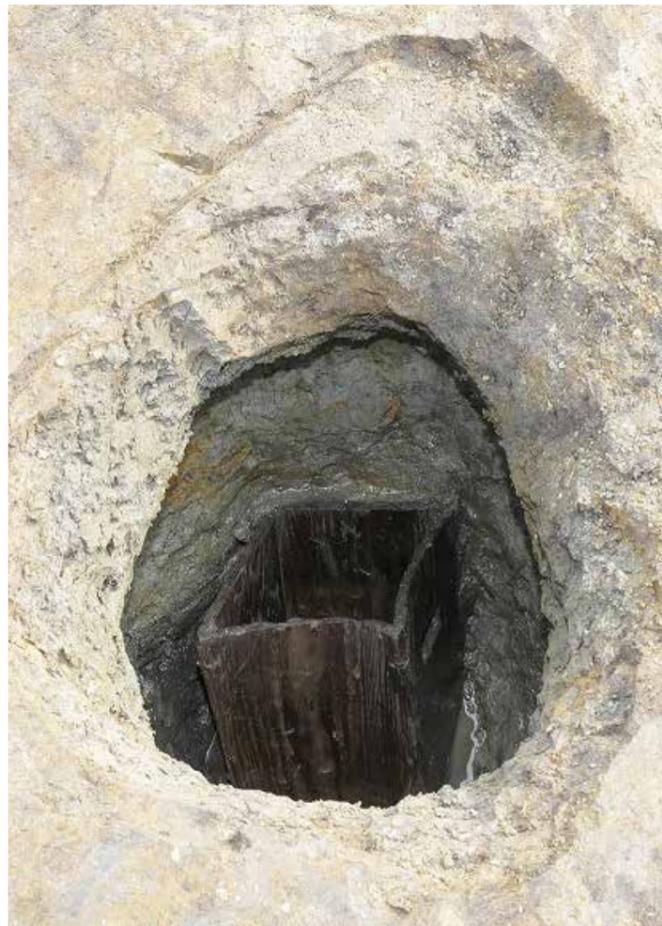


写真3 SK111 土坑内木製品出土状況 (北から)



写真4 SK112 土坑土層断面 (南東から)



写真5 SK115 土坑検出状況 (南から)



写真8 SK141 土坑検出状況 (北から)